

# これからの梨の栽培管理について（第4号） （東老田、中老田、南部、射水版）

令和5年5月19日  
なのはな農業協同組合  
富山県富山農林振興センター

## 1 黒星病について

- 現在発病している果実や果実の軸、葉の黒星病斑、芽基部病斑が感染源となり、降雨のたびに感染が広がる恐れがあります。
- これらは、見つけ次第すみやかに切除し、園外に持ち出して適正に処分してください。

### (1) 落葉からの子う胞子の飛散

モニタリング調査（人為的に感染落葉を敷き詰め、子う胞子の飛散量・時期を調査）における3月10日～5月10日の落葉からの子う胞子累積補足数は、128個/cm<sup>2</sup>（平成38年38個/cm<sup>2</sup>）とかなり多い状況でした。

### (2) 果そうの発病率

表1のとおり、5月中旬における果そうの発病率は、「幸水」、「豊水」、「あきづき」とともに多発年となったH27年以降、最も高くなっています。

表1 年次別の5月中旬の黒星病発病果そう率（%）

令和5年調査日：5月15日

品種	R5	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28
幸水	<b>34.8</b>	19.1	2.4	0.3	0.8	7.4	3.1	5.9
豊水	<b>18.6</b>	7.3	0.6	0.4	0.7	7.8	12.1	5.9
あきづき	<b>8.3</b>	0.5	1.0	0.0	0.5	2.5	2.5	0.0
新高	<b>0.3</b>	0.5	0.0	0.0	0.0	1.4	1.1	0.4

※H27（多発年）は6月から調査を実施

### (3) 今後の対策

#### ①基本防除の強化・徹底（十分な散布量、丁寧な散布）

- ・今後、防除計画を変更（殺菌剤の追加、散布間隔の短縮）し、薬剤防除を強化してください（詳細は裏面参照）。
- ・降雨前散布を徹底するとともに、SSは「低圧、低速、全列走行」、黒星病の発生が特に多い園地外周部等の補正散布を徹底し、散布ムラを極力無くすよう努めてください。

#### ②耕種的防除の徹底

- ・黒星病の芽基部病斑、罹病果実、葉は見つけ次第、摘み取って園外に持ち出して処分してください。
- ・短果枝群や側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤到達性が悪くなり、黒星病に感染しやすくなることから、摘果作業と並行して「芽かき」を実施してください。
- ・黒星病の発生がかなり多い園地では、り病葉の摘み取りにより葉枚数不足が懸念されるため、摘心は必要最低限（予備枝の一本化、枝病斑のある新梢の切除、新梢が込み合い暗くなっている箇所の間引きなど）にとどめ、葉枚数の確保に努めてください。

## 2 仕上げ摘果作業について

- ・仕上げ摘果は、表2の着果量基準を参考に、満開60日後（6月10日）頃を目安に終了するよう作業を進めてください。
- ・なお、黒星病の罹病果は確実に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。

表2 仕上げ摘果時の着果量（目安）

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり（100～120cm）	1樹当たりの着果量（3間植の場合）
幸水	10～11果	5～6個	290～320果／樹
豊水	11～12果	6～7個	320～350果／樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果／樹
新高	9～10果	4～5個	260～290果／樹

### 3 これからの防除について

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
10	5月28 ～30日	オキシラン水和剤 600倍 ファルコンフロアブル 6,000倍 トランスフォームフロアブル 2,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 ハマキムシ類、ケムシ類 カイガラムシ類、アブラムシ類	
11	6月4 ～6日	キャブレート水和剤 600倍 アプロードフロアブル 1,000倍 サムコルフロアブル 10 5,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 カイガラムシ類幼虫、ケムシ類、 シンクイムシ類、ハマキムシ類	
12	6月11 ～13日	オキシラン水和剤 600倍 アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍	300 リットル	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、カメムシ類、 コナカイガラムシ類	
13	6月18 ～20日	ユニックス顆粒水和剤 47(追加) 2,000倍	400 リットル	黒星病、黒斑病 ハダニ類、ニセナシバダニ	
		ダニゲッターフロアブル 2,000倍			
●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう					
14	6月25 ～27日	ストロビードライフロアブル 3,000倍 ベルコートフロアブル 1,500倍	300 リットル	黒星病、輪紋病、黒斑病、 うどんこ病	

※13 回目にユニックス顆粒水和剤 47 を追加するとともに、10～14 回目の防除間隔を7～8日に短縮してください。なお、13 回目はダニ剤と混合散布のため、散布量は 10 アール当たり400リットルです。

※11、12 回目は、カイガラムシ類の防除適期に合わせて殺虫剤の散布順序が当初計画(「令和5年度 呉羽梨病害虫防除こよみ」と異なりますので、ご注意ください(順番の入れ替えであって、殺虫剤の追加ではありません)。

※カメムシ類の飛来が確認された場合は、アクタラ顆粒水溶剤(2,000倍)を散布してください。

※ハダニ類の発生が早い場合は、アカリタッチ乳剤(2,000倍)を散布してください。

※散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

※こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

※周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。特に、通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください。

### 4 新梢管理について

・短果枝群や側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤到達性が低く、黒星病が感染しやすくなります。摘果作業と並行して、図1のとおり「芽かき」を実施してください。

・側枝は先端付近の新梢1～2本を残し、それ以外は摘心してください。また、予備枝は先端の新梢1本を残し、残りはすべて摘心してください。

・樹勢の低下した樹では、芽かき、摘心を極力控え、樹勢回復に努めてください。

・黒星病の発生がかなり多い園地では、り病葉の摘み取りにより葉枚数不足が懸念されるため、摘心は必要最低限(予備枝の一本化、枝病斑のある新梢の切除、新梢が込み合い暗くなっている箇所の間引きなど)にとどめ、葉枚数の確保に努めてください。



図1 芽かき作業 (左:芽かき前 右:芽かき後)